

国際地域学研究科
(2017年度入学生まで)

研究指導概要

博士前期課程

1. 各セメスタの指導内容

学生は、指導教員と密接に連絡をとりながら、履修指導ならびに研究指導を受けなければならない。なお、各セメスタにおける指導内容は下記のとおりである。

- 1セメスタ 研究テーマを決めそのテーマに合った調査、研究手法、研究計画を立案する。
- 2セメスタ 個々の学生の進捗状況に応じた指導を受けながら、主として調査、研究を行う。
- 3セメスタ 調査、研究したデータ等を分析して、とりまとめを行う。学会、学内紀要等への投稿も奨励する。
- 4セメスタ 修士論文をまとめあげる。場合に応じては、追加の調査、研究を行う。学会、学内紀要等への投稿も奨励する。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要

学生の研鑽の場、学生相互の交流の場として、1セメスタに2回、中間発表会、期末発表会を実施している。すべての学生が発表を行うとともに、他学生の発表を聴講して自らの研究の参考にすることを期待している。なお、最終セメスタ時の期末発表会時に修士論文の発表会をあわせて実施している。詳細は、適宜専攻から配布される資料を参考にする。

3. 特定課題研究論文

社会人学生に対しては、修士学位論文に代えて特定課題研究論文の提出を認めている。特定課題論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文であり、下記の3つの要件を予め満たしている必要がある。

- ① 学会における口頭発表論文が1本以上あること。
- ② 専門誌などにおける論文発表が1本以上あること。
- ③ 授業科目等について32単位以上取得していること。

※①②については本人の貢献箇所について提出時に明らかにすること。

なお、特定課題研究論文を選択する学生は、最終セメスタ時に指導教員の了承を得た上で申告しなければならない。実践的に調査・研究した特定課題研究論文の審査基準は、修士論文に準じる。

作成にあたり、形式および分量、発表等は以下の通りとする。

形式 修士論文に準じる（英文要約あり）

分量 20,000字（図表を含め）程度以上

要旨 A4 4枚（修士論文要旨に準じる）

研究発表は修士論文に準じる

博士後期課程

1. 各セメスタの指導内容

学生は、指導教員と密接に連絡をとりながら、履修指導ならびに研究指導を受けなければならない。なお、各セメスタにおける指導内容は下記のとおりである。

- 1セメスタ 研究テーマを決めそのテーマに合った調査、研究手法、研究計画を立案する。
- 2セメスタ 個々の学生の進捗状況に応じた指導を受けながら、主として調査、研究を行う。
- 3セメスタ 個々の学生の進捗状況に応じた指導を受けながら、主として調査、研究を行う。
- 4セメスタ 調査、研究したデータ等を分析して、とりまとめを行う。学会、学内紀要等への投稿も奨励する。
- 5セメスタ 引き続きデータ分析や取りまとめが中心となるが、併せて、修了要件を満たすよう学内外への論文投稿を積極的に行う。
- 6セメスタ 博士論文をまとめあげる。場合に応じては、追加の調査、研究を行う。

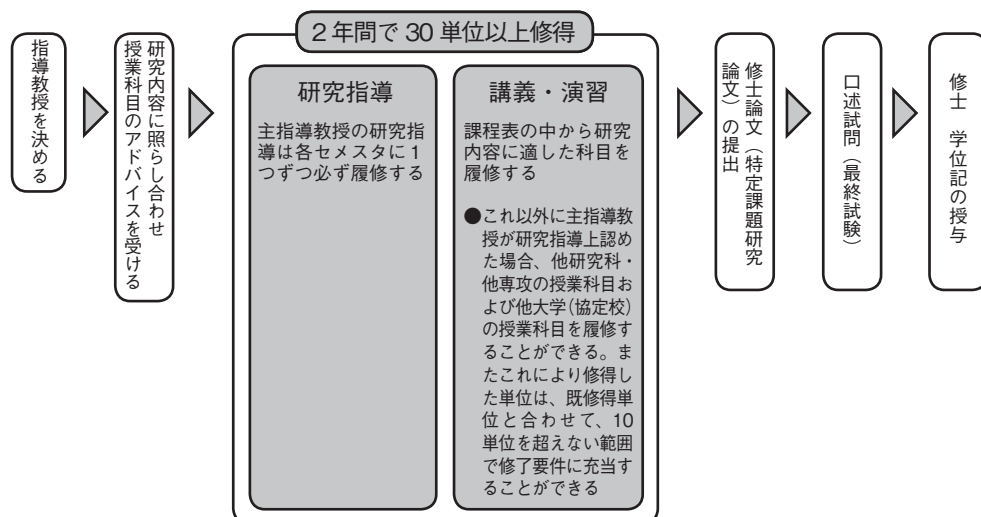
2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

学生の研鑽の場、学生相互の交流の場として、1セメスタに2回、中間発表会、期末発表会を実施している。すべての学生が発表を行うとともに、他学生の発表を聴講して自らの研究の参考にすることを期待している。なお、最終セメスタ時の期末発表会時に博士論文の公聴会をあわせて実施している。詳細は、適宜専攻から配布される資料を参考にする。

国際地域学専攻 (2017年度入学生まで)

前期課程

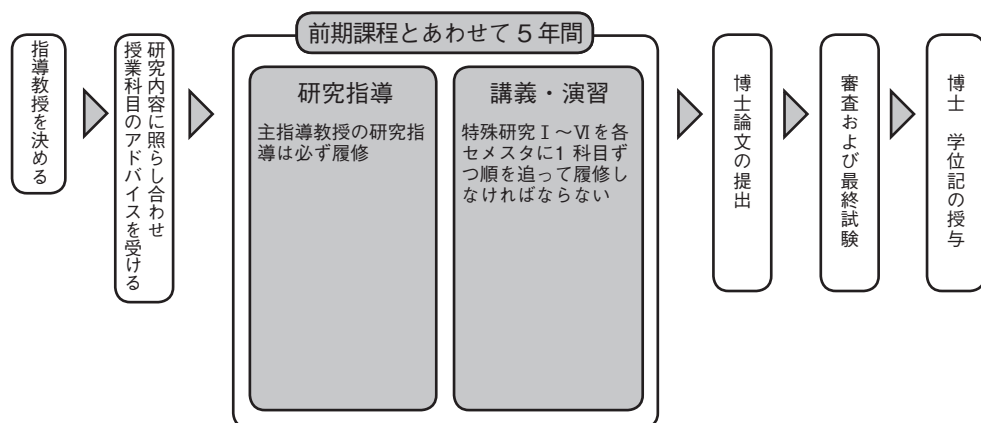
履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は2年間で32単位以上修得

後期課程

履修の流れ



※本専攻では、自身の研究を一層深めるために、研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

国際地域学専攻

博士前期課程（2017年度入学生まで）

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		職名	担当教員	備考
				日本語	Eng.			
都市・社会基盤計画特論 Advanced Theory of Urban Infrastructure Development and Management	講義	2	CEP601	秋		教授(兼任)	岡村敏之 Toshiyuki Okamura	
都市・社会基盤計画演習 Seminar on Urban Infrastructure Development and Management	演習	2	CEP602	秋		教授(兼任) 教授(兼任)	荒巻俊也 Toshiya Aramaki 岡村敏之 Toshiyuki Okamura	
エネルギー資源管理特論 Advanced Theory of Energy and Resources Management	講義	2	ENE601					本年度休講
エネルギー資源管理演習 Seminar on Energy and Resources	演習	2	ENE602					本年度休講
国際都市環境特論 Advanced Theory of Urban Environmental Planning	講義	2	EPS601					本年度休講
国際都市環境演習 Seminar on Urban Environmental Planning	演習	2	EPS602		春	教授(兼任) 教授(兼任)	荒巻俊也 Toshiya Aramaki 岡村敏之 Toshiyuki Okamura	隔年開講
科学技術政策特論 Advanced Theory of Science and Technology Policy	講義	2	POL601					本年度休講
科学技術政策演習 Seminar on Science and Technology Policy	演習	2	POL602					本年度休講
居住環境計画特論 Advanced Theory of Human Settlement Planning	講義	2	TPA601		秋	教授(兼任)	山崎義人 Yoshito Yamazaki	
居住環境計画演習 Seminar on Human Settlement Planning	演習	2	TPA602		春 日英併講	教授(兼任) 准教授(兼任)	山崎義人 Yoshito Yamazaki 志摩憲寿 Norihisa Shima	
国際環境衛生特論 Advanced Theory of Environmental Sanitation	講義	2	CEE601		春	教授(兼任)	北脇秀敏 Hidetoshi Kitawaki	
国際環境衛生演習 Seminar on Environmental Sanitation	演習	2	CEE602					本年度休講
開発経済学特論 Advanced Theory of Development Economics	講義	2	ECP601		春	非常勤講師(兼任)	湊一樹 Kazuki Minato	
開発経済学演習 Seminar on Development Economics	演習	2	ECP602	秋		非常勤講師(兼任)	坪田建明 Kenmei Tsubota	
公共経済学特論 Advanced Theory of Public Economics	講義	2	PFP601	秋		准教授(兼任)	志摩憲寿 Norihisa Shima	
公共経済学演習 Seminar on Public Economics	演習	2	PFP602					本年度休講
都市地理学特論 Advanced Theory of Urban Geography	講義	2	HUG601	秋		教授(兼任)	藤本典嗣 Noritsugu Fujimoto	
都市地理学演習 Seminar on Urban Geography	演習	2	HUG602		春	教授(兼任)	藤本典嗣 Noritsugu Fujimoto	
国際協力特論 Advanced Theory of International Cooperation	講義	2	ECP603		秋	教授(兼任)	岡本郁子 Ikuko Okamoto	
国際協力演習 Seminar on International Cooperation	演習	2	ECP604					本年度休講
社会システム特論 Advanced Theory of Social System	講義	2	SSE601					本年度休講
社会システム演習 Seminar on Social System	演習	2	SSE602					本年度休講
地域社会学特論 Advanced Theory of Urban and Regional Sociology	講義	2	SOC601	春		教授(兼任)	高橋一男 Kazuo Takahashi	
地域社会学演習 Seminar on Urban and Regional Sociology	演習	2	SOC602					本年度休講
地域情報マネジメント特論 Advanced Theory of Regional Information Management	講義	2	LIH601					本年度休講
地域情報マネジメント演習 Seminar on Regional Information Management	演習	2	LIH602					本年度休講
地球環境特論 Advanced Theory of Global Environmental Management	講義	2	EDA601	春		教授(兼任)	荒巻俊也 Toshiya Aramaki	
地球環境演習 Seminar on Global Environmental Management	演習	2	EDA602					本年度休講 (隔年開講)
開発人類学特論 Advanced Theory of Development Anthropology	講義	2	CUA601	春		准教授(兼任)	中村香子 Kyoko Nakamura	
開発人類学演習 Seminar on Development Anthropology	演習	2	CUA602					本年度休講
都市開発特論 Advanced Theory of Urban Development	講義	2	TPA603		春	教授(兼任)	安相景 An Sang kyung	
都市開発演習 Seminar on Urban Development	演習	2	TPA604	秋		教授(兼任)	安相景 An Sang kyung	

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		職名	担当教員	備考
				日本語	Eng.			
公共経営特論 Advanced Theory of Public Management	講義	2	PFP603		秋	教授(兼任)	沼尾波子 Namiko Numao	
公共経営演習 Seminar on Public Management	演習	2	PFP604					本年度休講
ジェンダー特論 Advanced Theory of Gender and Migration	講義	2	GDE601					本年度休講
ジェンダー演習 Seminar on Gender and Migration	演習	2	GDE602					本年度休講
社会保障・地域福祉特論 Advanced Theory of Social Policy	講義	2	SWS601		秋	教授(兼任)	藪長千乃 Chino Yabunaga	
社会保障・地域福祉演習 Seminar on Social Policy	演習	2	SWS602					本年度休講
国際経済特論 Advanced Theory of International Economics and Project Evaluation	講義	2	ECP605					本年度休講
国際経済演習 Seminar on International Economics and Project Evaluation	演習	2	ECP606					本年度休講
災害・危機管理特論 Advanced Theory of Disaster and Crisis Management	講義	2	NDD601	春		教授(兼任)	松丸亮 Ryo Matsumaru	
災害・危機管理演習 Seminar on Disaster and Crisis Management	演習	2	NDD602		秋	教授(兼任)	松丸亮 Ryo Matsumaru	
国際政治学特論 Advanced Theory of International Politics	講義	2	INR601		春	准教授(兼任)	中島晶子 Akiko Nakajima	
国際政治学演習 Seminar on International Politics	演習	2	INR602					本年度休講
比較文化特論 A Comparative Cultural Studies A	講義	2	LIG601	秋		准教授(兼任)	佐々木悠介 Yusuke Sasaki	
比較文化特論 B Comparative Cultural Studies B	講義	2	LIG602		春	准教授(兼任)	佐々木悠介 Yusuke Sasaki	
国際地域学研究事例演習 Seminar on Thesis of International Development	演習	2	SEM601					本年度休講
国際地域学研究事例演習 Seminar on Thesis of International Development	演習	2	SEM601					本年度休講
国際地域応用学特論 Advanced Theory of Practical Regional Development	講義	2	SEM602				荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、高橋一男、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人、志摩憲寿、中島晶子、中村香子	※
国際地域応用学演習 I～IV Seminar on Practical Regional Development I-IV	演習	2	SEM603 SEM604 SEM605 SEM606				荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、高橋一男、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人、志摩憲寿、中島晶子、中村香子	※
国際地域学研究指導(1～4セメスタ) Special Lecture on Regional Development Studies I-IV		2	REG601 REG602 REG603 REG604				〔指導教員〕 荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、高橋一男、中挾知延子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人、志摩憲寿、中島晶子、中村香子	

※メディアを利用して行う授業科目

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。ただし、学則第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、修了要件となる科目で32単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「国際地域学研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
 - ・修得した単位は8単位まで修了要件として認められる。
 - ・1セメスタから順番に毎セメスタ履修すること。長期履修学生および原級生で5セメスタ以上在学する場合で1～4セメスタ修得済みの者は再度4セメスタを履修すること。
 - ・再履修する場合は主指導教授および大学院教務課に相談すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
3. 「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位取得することができる。ただし、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる(同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない)。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本学大学院に入学する前に修得し、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位(既修得単位)と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

5. 「国際地域応用学特論」および「国際地域応用学演習Ⅰ～Ⅳ」はJICA 海外協力隊派遣者のみ履修することができる。

国際地域学専攻 博士前期課程 英語による授業について

表中「Eng.」欄に開講学期が記されている科目は英語での授業を行います。

JICA 海外協力隊派遣期間中の履修方法について

1. 派遣後最初のセメスタで国際地域応用学特論 2単位
国際地域応用学演習Ⅰ 2単位を履修・修得する
2. 派遣後2セメスタ以降は、国際地域応用学演習Ⅱ～Ⅳを順番に履修・修得する。
3. 履修方法1および2での修得単位は、最初の1回目のみ 合計10単位までを修了要件として認めることができる。
4. 派遣期間中、**主指導教授の「国際地域学研究指導」は、毎セメスタ必ず履修すること。**履修するセメスタは、通学期間中の履修・単位修得したものも含めて1セメスタ～4セメスタまで順番に履修すること。長期履修学生および原級生で5セメスタ以上在学する場合で1～4セメスタ修得済みの者は再度4セメスタを履修すること。修得した単位は8単位まで修了要件として認められる。
5. 派遣期間を除く通学期間は、最低1年以上とする。

博士後期課程（2017年度入学生まで）

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	担当教員
国際地域学特殊研究Ⅰ（1セメ） Specialized Research on Regional Development Studies I	演習	2	SEM701	荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、佐々木悠介、志摩憲寿、高橋一男、中島晶子、中村香子、中挾知延子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人
国際地域学特殊研究Ⅱ（2セメ） Specialized Research on Regional Development Studies II	演習	2	SEM702	
国際地域学特殊研究Ⅲ（3セメ） Specialized Research on Regional Development Studies III	演習	2	SEM703	
国際地域学特殊研究Ⅳ（4セメ） Specialized Research on Regional Development Studies IV	演習	2	SEM704	
国際地域学特殊研究Ⅴ（5セメ） Specialized Research on Regional Development Studies V	演習	2	SEM705	
国際地域学特殊研究Ⅵ（6セメ） Specialized Research on Regional Development Studies VI	演習	2	SEM706	
国際地域学研究指導 Special Lecture on Regional Development Studies			REG701	〔指導教員〕 荒巻俊也、安相景、岡村敏之、岡本郁子、北脇秀敏、志摩憲寿、高橋一男、中島晶子、中村香子、中挾知延子、西川吉光、沼尾波子、藤本典嗣、松丸亮、藪長千乃、山崎義人

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
3. 原則として主指導教授の「国際地域学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、Ⅰから順に各セメスタ履修すること。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

国際地域学研究科国際地域学専攻 修士論文の提出、作成要領について

1. 修士論文の作成要領

- ・ A4 判、ワープロ書き、横書き、片面印刷
- ・ 表紙について
 - 論文題目の字の大きさは、16 ポイント以上、それ以外は 14 ポイント。
 - 内表紙にも、同様の記載をする。
- ・ 本文
 - 文字：10.5 ポイント
 - 字数・行数：40 字、35 行
 - 余白：上下、左右ともに 3.0cm
 - ページ：下段、中央
 - 章題、図表の説明文等に関しては、適宜フォントを変更することは可能。
- ・ 目次、参考文献（巻末）、謝辞をつける。
- ・ 英文で提出する場合は、別紙を参考にして指導教員の指示に従い執筆すること。
- ・ 上記の形式と異なる場合には、指導教員と相談し、了承を得ること。

2. 修士論文要旨の作成要領（見本参照）

- ・ A4 判、ワープロ書き、横書き、4 ページ
- ・ 「国際地域学専攻修士論文」、提出年月（20〇〇年〇月）、指導教員名
- ・ 論文題目：14 ポイント（英文題目も）
- ・ 所属（東洋大学大学院国際地域学研究科国際地域学専攻博士前期課程）
- ・ 学籍番号→10.5 ポイント、氏名（英文名も）→12 ポイント
- ・ 英文要旨（200 語程度）、英文キーワード、日本語キーワード（5 個程度）
 - キーワードは、文献検索に利用されることを考慮し、論文の内容を的確に示す語を選ぶ。
- ・ 本文
 - 文字：10.5 ポイント
 - 字数・行数：40 字、40 行
 - 余白：上下、左右ともに 3.0cm
 - ページ：下段の中央

- ・ 図や表や写真の掲載も可能
- ・ 要旨の4ページ目（最終ページ）は、最後の25行を空白にする。この空白部分に主査・副査が審査報告を記入する。

【修士論文の要旨の見本】

国際地域学専攻修士論文要旨（20〇〇年〇月提出） 指導教員：東洋太郎教授

持続可能な環境都市に向けての一考察
ーカーボンマイナス東京10年プロジェクトー

3810140099

白 山 花 子

A Study towards Sustainable Eco-City :
10-Year Project for a Carbon-Minus Tokyo

SHIROYAMA Hanako

Tokyo's basic posture on climate change in the next decade ……
(英文要旨、200語程度) …… (略)

Key words : sustainable city, eco-city, CO2 reduction, Tokyo, carbon-minus
キーワード：持続可能都市、環境都市、CO2削減、東京、カーボンマイナス

〈論文構成〉
I. 序論
1. 従来の研究と問題点
2. 本研究の目的と方法
II. カーボンマイナスプロジェクト
(略)
IV. 結論

〈要約〉
本研究は…… (略)

(要旨)

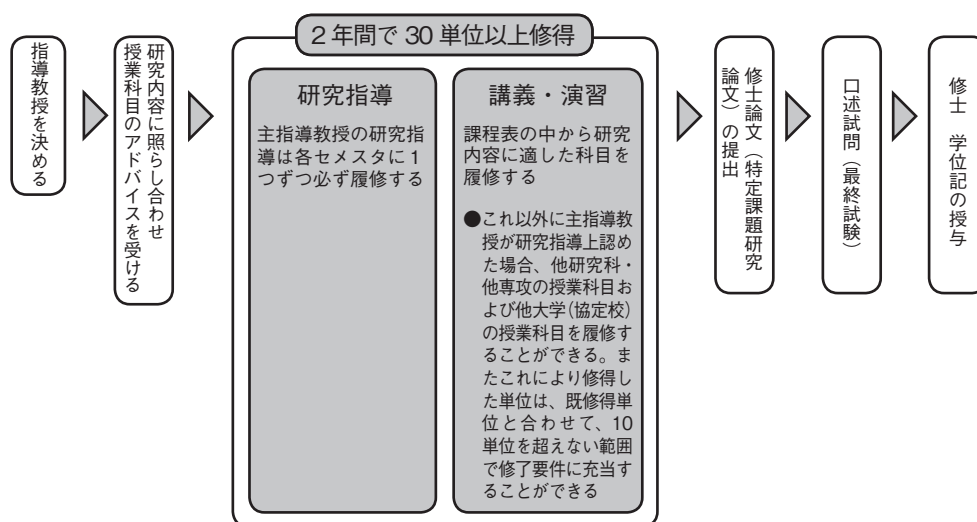
【審査および最終試験の報告】
本研究は、東京都のカーボンマイナスプロジェクトを事例として、持続可能な環境都市について考察し、…… (略)

……によって、本研究は修士論文として価値あるものと認める。
(主査：東洋太郎、副査：文京次郎)

以上

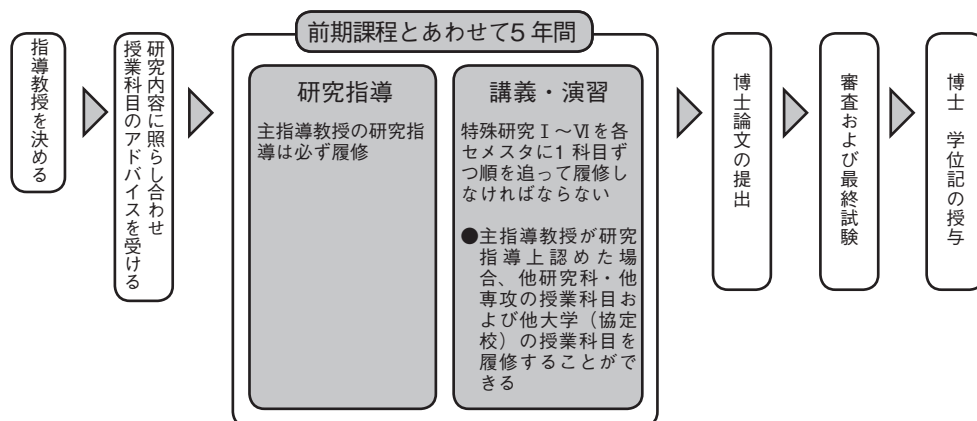
国際観光学専攻 (2017年度入学生まで)

前期課程 履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は2年間で32単位以上修得

後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

国際観光学専攻

博士前期課程（2017年度入学生まで）

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		職名	担当教員	備考
				日本語	Eng.			
観光交通特論 Advanced Theory of Tourism Transportation	講義	2	TOS601		秋	教授(兼担)	島川 崇 Takashi Shimakawa	
観光交通演習 Seminar on Tourism Transportation	演習	2	TOS602	春		教授(兼担)	島川 崇 Takashi Shimakawa	
観光交流特論 Advanced Theory of Tourism Exchange	講義	2	TOS603	春		客員教授(兼担)	梁 春香 Chun Xiang Liang	
観光交流演習 Seminar on Tourism Exchange	演習	2	TOS604	秋		客員教授(兼担)	梁 春香 Chun Xiang Liang	
国際交通経営特論 Advanced Theory of International Transport Management	講義	2	MAN601	春		教授(兼担)	黒崎 文雄 Fumio Kurosaki	
国際交通経営演習 Seminar on International Transport Management	演習	2	MAN602	秋		教授(兼担)	黒崎 文雄 Fumio Kurosaki	
旅行産業特論 Advanced Theory of Travel Industry	講義	2	TOS605	秋		教授(兼担)	野村 尚司 Shoji Nomura	
旅行産業演習 Seminar on Travel Industry	演習	2	TOS606					本年度休講
観光・ホテル事業特論 Advanced Theory of Hotel and Tourism Industry	講義	2	TOS607	春		准教授(兼担)	徳江 順一郎 Jun-ichiro Tokue	
観光・ホテル事業演習 Seminar on Hotel and Tourism Industry	演習	2	TOS608	秋		准教授(兼担)	徳江 順一郎 Jun-ichiro Tokue	
観光資源特論 Advanced Theory of Tourism Resource	講義	2	TOS609	春		教授(兼担)	東海林 克彦 Katsuhiko Shoji	
観光資源演習 Seminar on Tourism Resource	演習	2	TOS610	秋		教授(兼担)	東海林 克彦 Katsuhiko Shoji	
都市観光システム特論 Advanced Theory of Urban Tourism System	講義	2	TOS611	春		教授(兼担)	古屋 秀樹 Hideki Furuya	
都市観光システム演習 Seminar on Urban Tourism System	演習	2	TOS612	秋		教授(兼担)	古屋 秀樹 Hideki Furuya	
環境保護特論 Advanced Theory of Environmental Conservation	講義	2	EPS601		春	准教授(兼担)	藤 稿 亜矢子 Ayako Toko	
環境保護演習 Seminar on Environmental Conservation	演習	2	EPS602		秋	准教授(兼担)	藤 稿 亜矢子 Ayako Toko	
地域経営特論 Advanced Theory of Regional Administration	講義	2	PFP601	春		准教授(兼担)	栗原 剛 Tsuyoshi Kurihara	
地域経営演習 Seminar on Regional Administration	演習	2	PFP602	秋		准教授(兼担)	栗原 剛 Tsuyoshi Kurihara	
ホスピタリティ・マネジメント特論 Advanced Theory of Hospitality Management	講義	2	CME601	秋		准教授(兼担)	徳江 順一郎 Jun-ichiro Tokue	
ホスピタリティ・マネジメント演習 Seminar on Hospitality Management	演習	2	CME602	春		准教授(兼担)	徳江 順一郎 Jun-ichiro Tokue	
サービス産業特論 Advanced Theory of Service Industry Management	講義	2	STS601	春		教授(兼担)	飯嶋 好彦 Yoshihiko Iijima	
サービス産業演習 Seminar on Service Industry Management	演習	2	CME603	秋		教授(兼担)	飯嶋 好彦 Yoshihiko Iijima	
観光政策特論 Advanced Theory of Tourism Policy and Planning	講義	2	TOS613	春		教授(兼担)	東海林 克彦 Katsuhiko shoji	
観光政策演習 Seminar on Tourism Policy and Planning	演習	2	TOS614	秋		教授(兼担)	東海林 克彦 Katsuhiko shoji	
観光まちづくり特論 Advanced Theory of Regional Tourism Development	講義	2	TOS615	秋		客員教授(兼担)	丁野 朗 Akira Chono	
観光まちづくり演習 Seminar on Regional Tourism Development	演習	2	TOS616	春		客員教授(兼担)	丁野 朗 Akira Chono	
国際観光協力特論 Advanced Theory of International Tourism Cooperation	講義	2	TOS617					本年度休講
国際観光協力演習 Seminar on International Tourism Cooperation	演習	2	TOS618					本年度休講

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		職名	担当教員	備考
				日本語	Eng.			
観光文化特論 Advanced Theory of Tourism and Culture	講義	2	TOS619		秋	准教授(兼担)	ポグゲンドルフ ローレンツ Poggendorf Lorenz	
観光文化演習 Seminar on Tourism and Culture	演習	2	TOS620		春	准教授(兼担)	ポグゲンドルフ ローレンツ Poggendorf Lorenz	
統合型リゾート特論 Advanced Theory of Integrated Resort	講義	2	TOS621	春		教授(兼担)	佐々木 一彰 Kazuaki Sasaki	
統合型リゾート演習 Seminar of Integrated Resort	演習	2	TOS622	秋		教授(兼担)	佐々木 一彰 Kazuaki Sasaki	
国際観光学研究事例演習 Seminar on Thesis of International Tourism	演習	2	SEM601					本年度休講
国際観光応用学特論 Advanced Theory of Practical International Tourism	講義	2	SEM602			佐々木一彰、島川崇、東海林克彦、藤稿亜矢子		※
国際観光応用学演習Ⅰ～Ⅳ Seminar on Practical International Tourism I	演習	2	SEM603 SEM604 SEM605 SEM606			佐々木一彰、島川崇、東海林克彦、藤稿亜矢子		※
国際観光学研究指導 Special Lecture for international Tourism Studies		2	REG601 REG602 REG603 REG604			〔指導教員〕 飯嶋好彦、佐々木一彰、島川崇、東海林克彦、藤稿亜矢子、徳江順一郎、古屋秀樹、和田尚久		

※メディアを利用して行う授業科目

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。ただし、学則第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、修了要件となる科目で32単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「国際観光学研究指導」を、毎セメスタ必ず履修・単位修得すること。
 - ・1セメスタから順番に毎セメスタ履修し、単位修得すること。長期履修学生および原級生で5セメスタ以上在学する場合（1～4セメスタ修得済み）は再度4セメスタを履修すること。
 - ・修得した単位は8単位まで修了要件として認められる。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
3. 「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位取得することができる。ただし、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5. 「国際観光応用学特論」および「国際観光応用学演習Ⅰ～Ⅳ」はJICA 海外協力隊派遣者のみ履修することができる。

国際観光学専攻 博士前期課程 英語による授業について

表中「Eng.」欄に開講学期が記されている科目は英語での授業を行います。

JICA 海外協力隊派遣期間中の履修方法について

1. 派遣後最初のセメスタで「国際観光応用学特論」 2単位
「国際観光応用学演習Ⅰ」 2単位を履修・修得する。
2. 派遣後2セメスタ以降は、「国際観光応用学演習Ⅱ～Ⅳ」を順番に履修・修得する。
3. 履修方法1および2での修得単位は、最初の1回目のみ 合計10単位までを修了要件として認めることができる。
4. 派遣期間中、主指導教授の「国際観光学研究指導」は、毎セメスタ必ず履修すること。履修するセメスタは、通学期間中の履修・単位修得したのものも含めて1セメスタ～4セメスタまで順番に履修すること。長期履修学生および原級生で5セメスタ以上在学する場合は（1～4セメスタ修得済み）は再度（4セメスタ）を履修すること。修得した単位は8単位まで修了要件として認められる。
5. 派遣期間を除く通学期間は、最低1年以上とする。

博士後期課程（2017年度入学生まで）

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	開講状態		担当教員
				日本語	Eng.	
国際観光学特殊研究Ⅰ Specialized Research on International Tourism Studies I	演習	2	SEM701			飯嶋好彦、佐々木一彰、島川崇、東海林克彦、藤稿亜矢子、徳江順一郎、古屋秀樹、堀雅通、和田尚久、
国際観光学特殊研究Ⅱ Specialized Research on International Tourism Studies II	演習	2	SEM702			
国際観光学特殊研究Ⅲ Specialized Research on International Tourism Studies III	演習	2	SEM703			
国際観光学特殊研究Ⅳ Specialized Research on International Tourism Studies IV	演習	2	SEM704			
国際観光学特殊研究Ⅴ Specialized Research on International Tourism Studies V	演習	2	SEM705			
国際観光学特殊研究Ⅵ Specialized Research on International Tourism Studies VI	演習	2	SEM706			
国際観光学研究指導 Special Lecture for international Tourism Studies			REG701			〔指導教員〕 飯嶋好彦、東海林克彦、古屋秀樹、堀雅通、和田尚久

（2016年度以降入学生適用）

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。
- 原則として主指導教授の「国際観光学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、Ⅰから順に各セメスタ履修すること。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

（2015年度以前入学生適用）

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 原則として「国際観光学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、Ⅰ・Ⅱ…の順に各セメスタ履修すること。
- 国際観光学研究指導を担当する教員の「研究指導」を各セメスタごとに履修登録しなければならない。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、大学院学則第8条に基づき、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、大学院学則第10条の2に基づく、本学大学院に入学する前に修得し、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

国際地域学研究科国際観光学専攻 修士論文作成要領等について

1. 修士論文の執筆要領

(1) 基本的事項

- ・修士論文は、日本語または英語を用い、A4判用紙（縦）に横書きで印字する。また、執筆はパソコン、ワープロを使用しなければならない（感熱紙は使用しないこと）。
- ・論文題目は、学生と教員が相談して決定する。この題目に日本語を用いる場合、論文の記述はすべて日本語とする。また、論文題目に英語を用いる場合、論文の記述はすべて英語とする。
- ・論文本体は、極力白黒を基本として、無用にカラー出力を行わない。また、片面印刷とする。
- ・論文題目は、簡潔を旨とし、表題の末尾にピリオド等を付けないこと。
- ・論文題目の字の大きさは、16ポイント以上、それ以外は14ポイント。
- ・内表紙にも、同様の記載をする。

(2) 論文構成

- ・研究成果の内容により最も書きやすい構成とすればよいが、一般的には次のスタイルがあるので参考にすること。
(1) 表紙、2) 要旨（論文本体にも付け加える。体裁は本文と同様とする）、3) 目次、4) 図表リスト、5) 序論、6) 本論、7) 結論、8) 参考文献、9) 謝辞、10) 付録
- ・修士論文（序論から、結論まで）にはページ番号を用紙中央下部に示すこと。
- ・目次は階層構造が容易に理解できるよう留意すること。

例 1章 ○○○○○○○○○○○

1.1 △△△△△△△△

1.1.1 □□□□□□□□

- ・図表リストは、掲載ページとの対応表を示すものとする。
- ・付録は、論文内容を深く理解するために必要な情報、もしくは本文内では詳細すぎて記述できないが重要と考えられる情報について記載することが望ましい。

(3) 論文体裁

- ・論文本文の階層構造（章、節、項など）が分かるように記述することを心がける。
- ・マージンは上端25mm、下端30mm、左端30mm、右端20mmとし、日本語の場合、40字40行程度、英文の場合ダブルスペース、28行程度で印字する。文字は、10.5ポイントを推奨する。
- ・章は、改頁とし、節の区切りは1行あけとし、無駄な空白は作らない。
- ・図の番号ならびにタイトルは、図の下部に、表の場合は表上部に示す。また、凡例や軸の説明、数量の単位、方位や縮尺など必要な情報を適宜示し、分かりやすくすること。
- ・図及び表には、必ず通し番号とタイトルを付ける。
- ・ゴシック、ボールド、イタリック、斜体等、特殊な字体を用いて本文（地の分）を記述してはならない。（これらの文字は慣例に従い、数式又は学名などに限り用いることができる）
- ・章題、図表の説明文等に関しては、適宜フォントを変更することは可能である。
- ・数式はイタリックで記述すること。また、重要な数式には番号を打つこと。
- ・句読点については、論文中で統一したものをを用いること（例：「。」もしくは「.,」など）
- ・引用する場合、その旨分かるように明記すること。
- ・原則的に4万字程度を目安とする。

(4) 引用文献について

- ・引用文献はすべて記載する。
文献引用方法は、1) 引用順に番号を付けるか、もしくは2) 第1著者の姓でアルファベット順にソートするか、いずれかの方法を取り、論文内では統一するものとする。

1) 引用順に番号を付け、その順番に引用文献欄に整理する。本文中では引用部分に、「××法²⁹⁾」、「…知られている⁴⁰⁾」、など上付番号を記入する。

文献欄の例

a) 雑誌論文

著者名：論文名、雑誌名、巻名、号名、ページ番号、出版年

b) 単行本

著者名：単行本名、出版社、出版都市、ページ番号、出版年

c) 博士、修士、卒業論文

著者名：論文名、大学学部名（専攻名）及び論文の種類、出版年

- 2) 引用文献は第1著者の姓でアルファベット順に文献欄に整理する。本文中では引用部分に、「……と示されている(著者姓、出版年)」と記入する。

文献(引用文献)欄の例

a) 雑誌論文

著者名(出版年): 論文名、雑誌名、巻名、号名、ページ番号

b) 単行本

著者名(出版年): 単行本名、出版社、出版都市、ページ番号

c) 博士、修士、卒業論文

著者名(出版年): 論文名、大学学部名(専攻名)及び論文の種類

※他の表記方法もある。論文内で統一することが重要である。

※ページ番号は、雑誌等全体からの引用の場合は、ページ数全部を、一部からの引用の場合は、該当部分のはじまりのページから終わりのページを示すものとする。

例: 雑誌全体からの引用の場合

井手文雄: 界面制御と複合材料の設計、東京、シグマ出版、1995、250p

McMillan, G.K.: pH Measurement and Control. 2nd ed. North Carolina, Instrument Society of America, 1994, 299p.

例: 雑誌一部からの引用の場合

井手文雄: 界面制御の技術、界面制御と複合材料の設計、東京、シグマ出版、1995、pp.12-43

Doets, K.: "5 Linear resolution", From Logic to Logic Programming, Cambridge, MIT Press, pp.93-120, 1994

※2)の方法で、同一年に複数の出版物がある場合、もしくは複数の引用部分がある場合、本文中出版年の後に、a、b、…などアルファベットを用いて、識別する対応方法が考えられる。

- 3) ホームページからの引用は、修正等により参照することが不可能な場合が存在するため、極力避けるものとする。しかしながらそれが回避の場合、下記形式により記入することが可能とする。

著者名 所属機関名(表記がある場合): "文献名." オンライン名: "文献のアドレス" 文献の日付(表記がある場合)、アクセスした日付

例1) Dupis, Elizabeth (University of Texas Austin), "Take a Walk on the Wild Side." Internet: "http://www.lib.utexas.edu/Exhibits/wired.html" Viewed October 13, 1997.

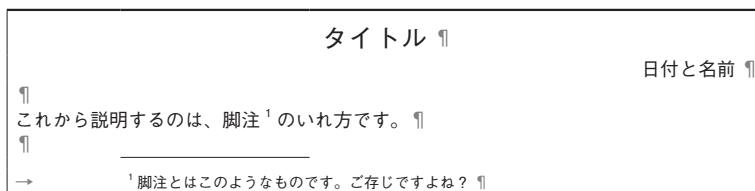
例2) "Information Literacy Resources." Internet: "http://www.epnet.com/infolit.html" October 1997. Viewed October 27, 1997.

例3) 東洋大学大学院環境科学研究科: "環境科学研究科の特色", インターネット: http://www.envr.tsukuba.ac.jp/point_new.html (2000/09/07)

- 4) 年代の表記は、極力西暦で統一して記すことが望ましい。元号を示したい場合は西暦を示した上で括弧書きにする方法が考えられる。

(5) 脚注について

- ・脚注にする場合は、最下段に、本文との間に線を入れて記載する。
- ・脚注と引用文献の表記について留意すること。別々に区別する方法(脚注を入れた場所の右肩に脚注番号が付け、そのページの下に対応する番号を示した後、説明を加える)、もしくは同一と見なして各章末に一括してまとめるなどの方法がある。使用方法は論文内で統一すること。
- ・脚注をいたずらに多用しないこと。



例:

- ・上記の形式と異なる場合には、指導教員と相談し、了承を得ること。

2. 修士論文要旨の執筆要領

- ・ A4 判、ワープロ書き、横書き、4 ページとする。
- ・ 「国際観光学専攻修士論文」、提出年月日、指導教員名
- ・ 論文題目：14 ポイント（英文題目も）
- ・ 所属（東洋大学大学院国際地域学研究科国際観光学専攻博士前期課程）
- ・ 学籍番号→ 10.5 ポイント、氏名（英文名も）→ 12 ポイント
- ・ 英文要旨（200 語程度）、英文キーワード、日本語キーワード（5 個程度）
- ・ 本文
 - 文字：10.5 ポイント、字数・行数：概ね 40 字、40 行、空白：上下、左右ともに 3.0cm
 - ページ：下段、中央に掲載、図や表の掲載も可能とする。
- ・ 要旨の 4 ページ目（最終ページ）は、最後の 25 行を空白にする。この空白部分に主査・副査が審査報告を記入する。

【修士論文要旨の見本】

<p>国際観光学専攻修士論文要旨（20〇〇年〇月提出） 指導教員：白山太郎教授</p> <p>ニュータウン開発と大学立地 —群馬県板倉ニュータウンの事例—</p> <p>3820170099</p> <p>東 洋 一 郎</p> <p>New Town Development and University Location : A Case Study of the Itakura New Town, Gunma</p> <p>TOYO Ichiro</p> <p>The Itakura New Town is …… (英文要旨、200 語程度) …… (略)</p> <p>Key words : new town, university, land use plan, Itakura, Gunma</p> <p>キーワード：ニュータウン、大学、土地利用計画、板倉町、群馬県</p> <p>〈要約〉</p> <p>本研究は…… (略)</p>
--

〈要項 4 頁目〉

<p>(要旨)</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>【審査および最終試験の報告】</p> <p>本研究は、板倉ニュータウンを事例として、ニュータウン開発における大学の誘致……</p> <p>(略)</p> <p>………よって、本研究は修士論文として価値あるものと認める。</p> <p style="text-align: right;">(主査：白山太郎、副査：観光次郎)</p>
--

以上